不定期刊行　　第624号　2017.10.31

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

## 北海道の高校生対象研修会

**全国高体連の部報の「登山の医学」を執筆されている大城和恵さんからの紹介で報告します。**

昨日（10月26日）、北海道で高校生向けに研修を行いました。今回は道北支部に向けて行い、高校生が３０名ほど、先生方が１０名ほどお越しくださいました。

私が発起人となり、私が委員を務めます北海道体育協会（共催）に相談してお金を出して頂き、教育委員会、遭難実態を一番よく知る道警さんと協力して、教育委員会に後援いただき、講習会を行いました。今年の５月に声をあげたのですが、やっと実現できました。高体連の先生は、ご多用の中、慣れない新しい企画にご尽力頂き、主催の労をいただき、とても素晴らしい会を開催頂きました。事務局の土居先生、旭川東高校の相田先生に、心より感謝しております。

今回の結果を受けて、ご報告になります。

北海道高等学校体育連盟

平成２９年度 登山指導者研修会開催要項

1 目的　道内高等学校登山専門部の指導者及び部員を対象として、安全な登山を実施できる知識と技術の習得を目指す。

2 主催　北海道高等学校体育連盟　主管 北海道高等学校体育連盟登山専門部

3 共催　北海道体育協会

4 後援　北海道教育委員会

5 協力　北海道警察本部

6 会場と開催期日 旭川支部　平成２９年１０月２９日（日）
北海道旭川東高等学校

7 参加対象　道内高等学校登山専門部活動顧問・部員

8 参加申込　別添の参加申込書にて申し込む

9 講 師 ・北海道警察本部山岳遭難救助隊
・北海道体育協会スポーツ科学委員会委員
社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院 医学博士 大城 和恵 氏

10 内 容
講義１ 山岳遭難救助活動の実際～通報から現場活動～
救助用ヘリコプターの実機紹介（札幌・帯広開催のみ）
講義２＋実技（1）山岳ファーストエイド
① 緊急性の見極め　② 低体温症
② 道内高校山岳部の過去多かった傷病とその予防　④ケガの手当
実技（2）シナリオトレーニング

（１）「登山の医学」を資料にしたのですが、各校に１部登山部報が配布されておられるとのことですが、生徒さんには全く配布されていないことがわかり、とても驚きました。先生も大事なのですが、将来を担う学生さんにこそ、学んでいただきたいな、と思いました。

（２）一昨年のIHの熱中症の発生についても簡単でしたが説明させて頂きました。身近な大会とあり、非常にご関心を頂きました。

（３）「登山の医学」の内容については、私が主宰している講習会の内容に基づいておりますので、それに沿った指導のできる医師が全国に散在しております。山岳医の中でも、適切に指導できる医師は限られており、一方、山岳医でなくても、非常に高いレベルで、指導できる医師もおり、この内容に関しては、私が、構築後に、講師研修会を行いながら育成させていただいた優秀な医師がおります。もし、全国で、このような講習会を行います際には、ご連絡をいただければ、お近くの適任の医師をご紹介させて頂きます。よろしければ、ご連絡くださいませ。今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

「登山の医学」を資料に講義。とは言っても、講義で話したことを、すぐに実技でやってみる。椅子に座っている時間はとても少ない講義でした。

午前中は二人一組で実技を学びます。最初は照れていても、一所懸命の高校生！「今日はいっぱい失敗しよう！」失敗を恐れず、どんどんトライしていきます。

高校生はとても素直なので、指導されたことがきちんとできますね。勝手なモディファイをしないんです。習得効果も高く、覚えが早い！（なんでこんなに大人と違うんだろう？というくらい、素晴らしいです！）

実技指導は、大城と日頃一緒に応急処置トレーニングをしている道警救助隊の精鋭部隊。

足首の捻挫と骨折は頻度が高い怪我です。先生も、とても熱心です。あるものが限られているので、それを使ってみるのがコンセプト。実際に歩いてみて、固定の良し悪しを実感されていらっしゃいました。

昼休みには、救助隊がどんな装備を持っているのか興味津津。左のオレンジのシェルターに高校生が隠れています！

午後は北海道一の山岳死因である低体温症について。このラッピングの医学的意味を高校生はすぐに説明できるようになりました。

次は、自分たちの持っているもので、トレーニング。持っているもので何ができるか、が課題。

新聞紙だって役に立つ！高校生の知恵が溢れるトレーニング！素晴らしい！

グループに分かれて、想定トレーニング。仲間が低体温症になってしまった。助けてみよう！助けられる役の高校生の演技が上手！

今度は、遭難パーティーに扮して、救助隊に助けてもらってみよう。人って、どんな風に運ばれるのか、知らなかった・・・

どんなことを、どんなスピードで、どのタイミングでしているのかな？このころから、質問がどんどん出るようになりました。

救助要請はどうやったらいいの？通報も練習してみよう。青い服の救助隊員が指導に回ります。報道発表をしたので、取材陣も来ました。

高校生、ドキドキしながらも、有意義な研修会に誇りを持って参加くださり、満足してくださいました。